



# 第4会場●4F 大研修室

■司 会／伊藤 正統 山口県美祢市立豊田前小学校 教務主任  
古川 裕子 北九州市若松区花房地区まちづくり協議会 会長

分科会の進め方 13:30~13:35

**1** 震災体験後の熊本市「秋津公民館」の「地域づくり」への取組  
～拠点避難所から得た、防災教育の核となる「つながり」への工夫～ 13:35~14:05

宮尾 有(熊本県熊本市) 花園公民館 社会教育主事

平成28年4月の熊本地震以後、秋津公民館は拠点避難所となった。8月には避難所は閉鎖されたが、避難所運営を通して「人と人をつなぐ」防災教育、学校やNPO等の関係機関との連携の在り方、避難民の健康への啓発等々の重要性を痛感した。そこで、公民館・まちづくりセンター・ボランティア団体等と連携して、地域に住む人々の防災意識、人と人との「つながり」の大切さへの意識改革、健康への意識を高めることを目的に、講座・行事に取り組んでいる。何処の機関・団体と、どのような形態で連携・協働したか。どのような内容を講座のプログラムに導入したか、その工夫と成果、今後の課題解決が注目。

**2** 学生NPOと町教委との協働による教育支援活動と地域活力の創出 14:10~14:40

大西 浩正(徳島県牟岐町) NPO法人牟岐キャリアサポート 理事長  
高野 風人(徳島県牟岐町) NPO法人ひとつむぎ 副理事長

平成26年に牟岐町で開催された国際系サマースクールの運営スタッフだった大学生が、恩返しの気持ちから地元中学生の「社会人基礎力」育成などの教育支援活動に着手、平成27年2月に大学生主体のNPO法人を設立した。将来を見据えた人材の循環と活動に参加する関係人口を取り込むことで、地域の活力維持を目指す。町主導で設置した中間支援NPO、町教委、学校、地域との連携協働体制ができた。ここで育った子どもが高校進学後も学生NPOの活動に参加する等、人材の循環も始まっている。

ティータイム 14:40~15:05

**3** 災害に対処する力の育成と避難時支援のための協働の仕組みづくり 15:05~15:35

川村 正人(大分県大分市) NPO法人 大分県防災活動支援センター 主任研究員

市役所や自治会等関係者と連携しながら、県内で減災と地域防災力向上に関する啓発を行い、緊急支援活動にも寄与するNPOで、平成27・28年度には県の「地域を担うNPO協働モデル事業」に採択された。地震や豪雨災害を想定し、危険を予測しながら地域のハザードマップを作成、対処法をグループで話し合うなど住民の学習会、ワークショップ等を進めながら災害時に対応できる仕組を構築、検証している。実施の過程で避難所を見直したり、安否確認カードを作成したりする等の成果も出ている。

**4** コミュニティ・スクールに関係していく公民館  
～公民館を核に取り組み地域学校協働活動と地域づくり～ 15:40~16:10

和西 禎行(山口県山陽小野田市) 山陽小野田市企画部企画政策課 課長  
柿並 健吾(山口県山陽小野田市) 山陽小野田市教育委員会 中央公民館 係長

平成28年度の市内全・小中学校のコミュニティ・スクールの移行に合わせて、公民館長を“学社融合”の第2コーディネーターとして位置づけ、「学校づくり」「地域づくり」の両面を見据えた取り組みが全市的に進んでいる。公民館同好会サークルの授業支援、小学校で実施する公民館講座、公民館・小学校合同学習発表会といった多様な事業が、公民館のコーディネートで始まっている。